

のことであった。ここ蘇州では昔からキンモクセイとモクレンを植えると金持ちになるといい伝えられていると聞いたが、そのわけは聞けなかった。

上海から蘇州のこのあたりは大稲作地帯であり、畑作地はほとんどみあたらない。これから刈り入れが始まろうとしているところで、黄金の穂が見渡す限り、重い首を垂れていた。また、蘇州は水の都ともいわれ、水路が多く、水の豊かなところである。マコモやヨシ、ダンチクなどが、到る所にみられたし沼地にはボタンウキクサらしきものの大きなものがたくさん浮いていた。流れの弱い川の中には、ミ

ズアオイとおぼしきものが、水面を埋めつくしているのも遠望できた。

おわりに

2週間近くの中国の旅であったが、町から町を渡り歩く旅であり、山や野に出る機会がほとんどなかったので、中国の植物的自然を充分に見ることができず残念であった。

植栽種や雑草の中から目についたもののいくつかを書き並べてみたが、種名も不確実なものがあるので、ほんの読物的に読んでいただければ幸に思います。

〔植物ニュース〕 91. ヤシャゼンマイ *Osmunda lancea* Thunb.

長野県内のヤシャゼンマイの分布は主として木曾谷および伊那谷の南部に限られ報告されていたが、筆者が南佐久郡佐久町の町誌のための調査の際1983年5月に抜井川の標高840 mの平川原地籍でヤシャゼンマイの1株を見つけた。生育場所は水の流れから1.5 mほど離れた岩の上のわれ目で、根株の直径30 cmほどの株で、葉が25枚ほどで草高40 cmほどとなり、孢子葉も7~8本つけていた。

佐久地域からは現在までのところ報告がなく初発見と思われる。その後、佐久教育会の植物研究委員

会の人々や、羊歯に詳しい大塚孝一さんにも見ていただいたが、ヤシャゼンマイにまちがいないとのことであった。1985年に観察した時には、株の周辺の岩場のわれ目で、前にはなかったと思われる地点に小さな芽生えがいくつか発見できたので増える傾向にあるようにも思われる。また、この第一発見地から300 mほど下流の水辺の岩場にも、これよりは大きい株があるのを見つけた。

奥原先生のお話では、その付近にオオバヤシャゼンマイもあるかも知れないとのことであるが、佐久地域にはゼンマイの個体数が非常に少ないので、みつかるかどうかわかりません。(中山 洸)



佐久のヤシャゼンマイ 1983年5月28日
(南佐久郡佐久町平川原 標高840 m)

〔新刊紹介〕 久保田秀夫・松田行雄・波田善夫

「白根山の植物」 B5判、カラー図版18頁、全117頁、付表5、着色2万5千分の1現存植生図、栃木県発行(1985)、非売品。

シラネアオイやシラネニンジンをはじめ、シラネアザミ、シラネニガナ、シラネザクラなど、白根の名を冠した多くの植物で知られる日光白根山(2577 m)を中心に、亜高山地域の植生と植物相等についてまとめている。特別保護地区の自然環境保護対策に関する基礎資料収集のために行われた研究調査報告書ではあるが、群落名や植物名には全て学名が付けられ、装丁もきちんとした立派な学術書である。特に、植生については、植物社会学的な立場から調査され、シラビソ-オオシラビソ群集以下、天然生のカラマツ群落、ミヤマハンノキ-ダケカンバ群集、高茎草原のオオトネアザミ-シラネアザミ群落、偽高山的な風衝地植生等、19群落にわたって詳細な組成が記載されている。既刊の尾瀬や谷川岳近辺に加えて、日本海と太平洋側の接点に当たる北関東山地の地域植生誌に、また貴重な文献が増えたことになり、高く評価されよう。(和田 清)